

ご挨拶



日本武藝躰道三代宗家 祝嶺正献

全国的な梅雨明けを迎え連日猛暑続きの夏本番となりました。毎年のように更新される大雨や土砂 災害 の数と規模 拡大、被災者数の累計 ですが、日本で暮らす私たちは美しい四季の移り変わりに心身を癒され、同時に、その自然の破壊力を前にいかに無力であるかを思い知らされます。支援を要する皆様へ心よりお見舞いを申し上げますと共に、多くの自治体におかれ災害復旧への道のご苦勞される中、躰道の少年少女、高校生大会が今年も無事開催されますのは、子供たちのニューノーマルにご理解を賜り指導環境を整えて頂いているお蔭様と、山梨県協会の皆様に心より感謝申し上げます。

子育て世代のご家庭では暑い夏、長い夏休みをどう過ごそうかと計画に工夫を凝らしておられることと存じます。この夏、躰道では青森県での国際親善大会にたくさんのちびっこ躰道家が集まりコロナの流行で途絶えかけた国際的な交流 活動が復活する形となりました。マスク姿での学校生活や友達との距離、オンライン授業も卓上のスクリーンやタブレットを見ながら、と、この数年で失った私たちの日常生活はそれまで以上に二次元スクリーンから伝えられる情報に敏感にならざるを得ませんでした。視覚、聴覚に留まらず、自分の居る場で直に接する人との対面関係に『礼』を示すこと、躰道をツールとして活かし異文化コミュニケーションを図ること の大切さを見直したいと思います。

夏休みに限らず子供の成長過程にどのような環境を整えてあげようかと悩まない親御さんはいらっしゃらないと思います。興味のあるもの、試してみたいと思えるものに出会うチャンスが当たり前のようにあるわけではありませんが、躰道と出会ったみなさんが稽古を通じて健康な心身を手に入れ、日本以外の国で暮らす仲間を作り、その中で自分の果たす役割を楽しむことが出来るようになれば、それはきっと将来的に持続可能な循環型社会への取り組みへと繋がるのだと思います。日々の積み重ねが評価された選手の皆さんは全国大会という大舞台に臨む機にも恵まれました。ほかに苦手なものがたくさんあっても『躰道だけは頑張る』。ほかに苦手なものがなくても『とにかく躰道は頑張る』。そんな皆さんにお会いできる大会当日を楽しみにしています。この原稿を準備させて頂く7月の終わりはコロナ禍を経ていよいよ6年ぶりに開催される世界選手権大会を目前に控えており、関係者の皆さまに於かれましてはいつにも益して忙しい夏をお過ごしのことと、日本躰道協会役員の皆様に改めて御礼 申し上げ、本大会開催へのご挨拶とさせていただきます。